

2016年をふりかえり・・・・・・・・

今年度は、振り返るといろいろなことがありました。その筆頭に上がるのは、神奈川県様・茅ヶ崎市様のおかげで、基地建物が一新され、使いやすく監視体制の上からも2階部が大きく拡張され、すべてが一か所でウォッチ出来る様になり人員が減少した中でも全体に注意を払うことができた事です。発足時から18年にして新設となりましたこと心より感謝申し上げたいと思います。また、市との新しい協働事業も難しい部分もありましたがメンバー全員の協力により無事に1年目を終えることができました。新しいクラブハウスに関しては一般の方々にも公開し中を見学してもらい「よかったね！」と応援の声もかけていただきました。また、ライフガードの各所も挨拶がてら視察に来るなど良いモデルケースにもなりました。これからは外見や装備がよいというだけでは長続きはしません。中身である我々の行動や言動が伴っていかねばなりません。個人の人間が一つのボランティア活動を長く続けるのは難しいのかもしれませんが、各々の生活に追われだんだんボランティアは忘れられがちになってしまいます。しかし、初心を忘れてはいないものの年齢は自然と上がってきてしまい体力も落ちてきて、社会生活の疲れやストレスなどの原因もありだんだんボランティアの現場が行き辛いものになっているのかもしれませんが、すべてが終わってしまうことは簡単ですが、我々の活動は「今日」いや、少なくとも10年先までは終わらせるわけには行けない内容のものであり、支援者様や協力団体様もそれを願ってくれていると思っています。何とか継続していかねばいけない気持ちはあっても「人」がいて行える活動です。悲観的と思われるかもしれませんが、年々一時的なボランティアは行っても長期にわたる活動を行う人は時代の変化とともに少なくなっています。そういう数少ない思いを持ったメンバーを見つけ出すことがこれからの課題であると共に今までの活動内容を衰退させず継続して行くことが我々の多くの支援者様の気持ちに答える唯一の道ではないかと思い、今一層の努力をしていかねばいけないと考えています。

市民事業推進の一環として、行政提案型協働推進事業「海浜利用におけるマナー啓発事業」も2年目に入り本来の形ではない2足の草鞋状態ですが来期も予算もつき社会的意義ある団体として認められつつあることに胡坐をかくことなく、常に底辺の位置からのスタートという意識を持ち、一人一人が社会貢献への強い意志をもって、この難局を打破できるよう願うとともに、「有言実行」と「プロミス」が果たせるよう活動していかねば成らないと考えています。

以 上



サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

代 表 小川 恵一郎